

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホーム コスモス 1		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成26年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022](http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム コスモスは識名の住宅街に位置し館内はグループホーム他5事業所が併設され地域からの相談を多機能にサポートできるよう地域に根差した施設を目指しています。住居スペースは全室個室で気兼ねなくご自分のペースで過ごせる住居を提供し、住み慣れた地域で親しみある方と、今までの生活と変わりなく過ごせるよう利用者、家族の想いを尊重していくよう努めています。また施設近隣の職員が就労していることで、日々、生活している利用者の住み慣れた地域での暮らしの背景や地域の活動について共に関わりを継続できるよう、利用者の培ってきた経験を活かしながら心身機能を維持し、安心、安らぎ、ゆとりのあるサービスを提供しゆったりとした共同生活を送れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域福祉に長年携わってきた法人の複合施設に市内初の2ユニットの地域密着型サービス事業所として開設している。職員等の意見が施設内環境設備等に反映され、入居者のプライバシーの確保や職員の導線等に配慮した造りとなっている。職員のユニット間の限定異動や、しきなガーデン地域防災委員会の設置等、職員間の情報共有やケアの統一、夜間帯の不安解消にも繋げている。入居者がより一層食事を楽しめるよう、厨房スタッフによる出張サービスを企画し、入居者の目前で調理して食事を提供する機会を設けている。また、職員が目標をもって業務に取り組めるよう個別面談の機会を設け、育成や待遇改善に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年2月26日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議前に全員で理念を唱和し共有に努めている。また理念を事業所内に掲示することで、実践につなげられるようにしている。	法人理念を基に管理者は開設時に「職員の行動指針」として具現化し示している。理念は掲示し、職員は日常の会話等で確認している。理念の実践を、地域福祉の拠点となる為のニーズの把握や、職員は年2回の面談で個々の目標設定やケアの向上に取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が暮らしてきた地域の方と触れ合う機会を作っている。また近隣の園児との交流も定期的に行っている。	入居者の日常的活動の中で散歩や買物、イベント等で近隣に出かけ、地域住民との交流の場は主に行きつけの受診先となっている。近隣住民から事業所への相談(独居・認知症・介護等)が増えニーズを把握しているが、具体的な取組みには至っていない。	「地域の認知症高齢者や家族が相談できる場所(事業所)」を目指したいとの思いもあるので、今後の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共に支え合う関係を構築できることを目標にしている。問い合わせや相談も気軽にできるようプライバシーには十分配慮し対応させて頂いている。また人材育成の貢献として実習生の受け入れやスタッフの研修も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組みや成果のみではなく、現状の課題やご家族の要望等も話し合い、その経過についても報告し意見交換を行い、サービスの向上に活かせるよう努めている。	会議は2ユニット合同で奇数月に開催し、家族、地域、行政の参加の他、入居者の参加にも努めている。会議では、事業所の運営状況やヒヤリハット等の報告事項、入居者の活動状況について意見交換をしている。委員から活動や行事等へのボランティアとして、地域老人センターへの声かけの提案等を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議や連絡会、市町村窓口において、事業所の状況等を伝えるなど日頃から連携を図れるよう取り組んでいる。	運営推進会議に参加して、事業所の実情を把握や社会資源を紹介している。また、2か月に1回は市グループホーム連絡会に於いて外部評価、制度等について意見交換している。職員は入居者の計画書の更新等の事務的必要時に窓口を訪問している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について共有認識を図るため勉強会を行い、身体拘束の具体的な行為について確認している。また安全面を理由に利用者の行動を抑制しないよう日頃からスタッフは気づいたことは互いに伝え合える環境を作り、家族にも伝えるようにしている。	入居者の情報を丁寧に収集し、入居者と関わりがある人、入居者にとって最善の場所等を把握し、入居者の言動に対するケアに活かしている。「家にかえりたい」の声には「いつでも帰れますからね」と言葉で返し、全て受け入れる事を入居者に理解してもらえよう対応している。身体拘束の方針やマニュアルを整備している。	

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を開催をしている。管理者は職員と個別で話し合う機会を設け、不適切な言葉や対応がないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や後見人制度について必要と思われる利用者がある場合、対応ができるようパンフレット等を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族の都合のよい時間に重要事項説明書も用いて解りやすく内容を説明するようにし、項目ごとに気になる事や疑問があるか尋ねながらご理解、納得をしていただき契約を締結できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いや意見は日々のケアの中で確認し、面会時に家族の意見や要望を聞くように努めている。入居者や家族・運営推進会議での意見要望等は申し送りやミーティングで話し合っている。玄関前に意見箱を設置し家族や外部からの意見を反映できるようにしている。	入居者からの意見は、日頃の会話の中で聞いている。家族からの意見は運営推進会議や面会時、電話等で聞く機会としている。家族から、「入居後もしハビリ訓練を継続して欲しい」との要望に、ストレッチや歩行訓練を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、気付きや意見・提案等を聞くようにしている。業務やケアの見直しに関してミーティングで意見交換を行い内容を改善している。	職員の意見を受けて日々の業務に関する改善や備品購入、サービス内容の見直しを行っている。勤務の要望は、早めに確認し対応している。職員から、「即座に測定できる体温計や食事介助用の椅子を購入して欲しい」との意見があり、要望に応え購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課では、職員一人ひとりの目標や業務状況を把握し、アドバイスをしながら職員が向上心を持ち就業できるよう働きかけている。職員の実績は評価し給与に反映できる仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、マンツーマンの体制を取り、ケアの技術面、利用者の関わり方について指導を実地している。外部研修の情報を提供したり、職員のスキルに合った研修へ派遣し事業所内で報告会や勉強会を行っている。		

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修会へ参加し、同業者と交流を持ち情報交換や親睦を深めケア向上に活かしている。職務会は法人の他事業所との情報交換や交流の場となるように合同で行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状態把握に努め、入居前に見学や体験等をして頂き、本人・家族の不安や今後どのような生活を望まれているのか等を傾聴し安心して生活が送れるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の体験や思いを理解し、いつでも相談頂けるよう家族の都合のよい時間や場所などに配慮し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にホームを見学して頂き、面談時に希望などをお聞きし必要に応じて他のサービスの情報等を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ち・希望・悩み等察知し、寄り添い毎日和やかに楽しく過ごせるよう努めている。日常の家事や行事の準備は入居者と一緒に行い、共に暮らす同志として関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の近況報告をし、情報を共有している。また、誕生日等のイベントは家族と一緒にいき、共に支え合う関係を築き、入居後も家族と入居者の良い関係が継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人と外出する際は、安心して外出できるよう準備をしている。面会の際はお茶等を用意し、ゆっくり過ごして頂けるように努めている。	地域社会との関係性は入居者や家族から聞き取り把握している。入居前から通っていた美容室から、事業所での出張カットの協力を得て利用を継続している方もいる。知人と一緒に音楽会に出かけたり、以前住んでいた地域にドライブに出かける等の支援もしている。	

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にしながら、日々の様子を観察しトラブル等見られた際には、職員が間に入り個別に話を聞き利用者同士がうまく関わり合いを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られる場合は、関係者へ本人の状況や支援内容について情報を詳しく伝え、本人や家族が相談できるよう心掛けている。また、転居後も必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で声を掛け、表情・言葉などから、本人の意思をくみ取るよう努めている。家族の方から情報を得たり、職員間でも話し合い本人の意向を可能な限り実現できるようにしている。	日常会話の中で、入居者が答えやすい言葉を選び、言葉かけを行うように努めている。把握が困難な場合は、家族からの情報や利用時の行動や表情等から汲み取るようにしている。本が好きな入居者と図書館へ出かけたり、職員が読み聞かせを行う等取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしていくことを支援するために、本人の会話の中からも生活歴やライフスタイルを把握するように努めている。本人から聞き取れない場合は、プライバシーに配慮しつつ家族・友人・知人から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム(食事・睡眠・排泄)などを把握し体調の変化を確認しながら、本人のできる力、わかる力を生活の中で発揮できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会話の中からも、本人の意向を確認し日頃の生活の様子を記録している。家族へ本人の生活の様子・意向をお伝えし、本人の意向、家族の意見・要望等が反映できる介護計画を作成している。	担当者会議やモニタリング、介護計画の見直しは、更新時や状態の変化があった場合等随時に行っている。プランの確認や変更時は申し送りやノートを活用し、職員へ周知している。「生け花をしていることが楽しい」や「歩行訓練をして欲しい」等の意見に対応し実施しているが、介護計画に反映されていない。	入居者や家族の意見や要望を介護計画に反映し、現状に即した介護計画の作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は入居者の状態を申し送りや記録を確認して業務に入っている。個別に生活の様子や身体的状態を記録することで、情報を共有できるようにし介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望・要望に応じて訪問マッサージや訪問看護、通院時の送迎などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者支援ができるよう民生員と情報交換を行っている。入居後も家族や本人が在宅からの継続した関わりを持ちながら暮らせる体制を築けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を設け、迅速な対応(受診)が出来る体制を築いている。また本人、家族が希望するかかりつけ医は継続して利用して頂き、生活の様子や体調を伝えるなどし受診を支援している。	希望するかかりつけ医を職員と受診し、職員は日頃の状況を説明している。眼科、耳鼻科等他科受診の際にも初診時には職員が立ち会い、家族が受診対応する時には記録を抜粋した情報提供書を渡している。入居者毎に救急搬送・入院時引き継ぎ書と薬の服用状況がファイルされ、緊急時にも対応できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理を通して、体調の変化や些細な表情の変化などを、訪問看護へ報告し、適切な医療へ繋げるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ本人の情報提供を行い、面会時や電話連絡等で医療機関と連携し、退院後の受け入れが、スムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方について契約時に書面を用いて説明している。また、利用者の状態に変化がみられる場合は、その都度事業所で、出来る事・出来ない事を話し合い、関係機関と共に支援できるように努めている。	事業所の方針を、入居時に入居者や家族に書面で説明し、重度化した場合の対応について同意書を得ている。入居者や家族の意向を聞き、医療が必要になった場合は関係機関と連携し訪問看護の利用で対応し、終末期は医療機関等を紹介する等の方針で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連携がスムーズに行えるよう医療機関と話し合う機会を設け緊急時、夜間時マニュアルを作成している。今後は全ての職員が応急手当の勉強会を実施し体得、習得するように取り組んでいく。		

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回、日中、夜間を想定しての避難訓練、消火訓練、避難経路の確認などを地域住民と共に実践し協力体制を築けるよう取り組んでいる。	地域住民や消防等で組織する「しきなガーデン地域防災協力委員会」を立ち上げ防災対策に取り組んでいる。併設の有料老人ホームと合同で消防署の立ち会いの下、昼間・夜間に消防避難訓練を実施しているが、警報装置等の機器取り扱いについては繰り返し周知する必要性等を課題としている。	災害時に入居者を安全に避難させる為にも、職員が慌てず確実に機器等が操作できるよう、繰り返し手順や操作方法等の訓練の取組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し本人の気持ちを大切にしながら、自己決定しやすい言葉かけや、自尊心を大切にすることを心掛けている。	入居者を尊重し会話をする時には目線を合わせ、解りやすい言葉で話しかけている。共同のトイレには、ドアの前にカーテンをかけ羞恥心に配慮している。トイレに誘う時には耳元で声を掛けるようにして、排泄の失敗時に自尊心を損なわないよう車いすのポケットに着替えの衣服を準備している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者自身が自己決定できる場面を作り、利用者一人ひとりの表情や、希望、好みを把握し満足して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に配慮しながらその日の気持ちを尊重し、食器洗い、洗濯たたみなどの作業や、休憩も本人のペース、希望で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装・身だしなみは、ご本人の好みを確認しながら決め、自己決定がしにくい入居者は職員と一緒に考え、支援している。ヘアスタイルは本人の意向を確認しカットや毛染めなど家族の了解を得て行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片づけ等は、入居者個々に合った活動を共に行っています。職員は入居者と同じテーブルで会話をしながら楽しい食事が出来るよう心掛けています。	管理栄養士の考えた献立を階下の厨房で調理し、入居者は盛り付け、片付けで参加している。職員もテーブルを囲み同じ食事を摂り、会話が弾んでいる。時には趣向を凝らし厨房スタッフが板前やコックの格好で、握り寿司、串カツ、中華等、入居者の前で提供し、暮らしの中で食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調と一日の摂取量を把握し、個々の状態に合わせた食事量、形態を提供している。水分補給は手作りゼリーや黒糖湯、ヨーグルト等も準備し無理なく水分摂取できるように工夫している。		

沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのうがいには衛生水を使用している。声かけをしながら義歯を洗ってもらったり、自分で出来ることは見守り、口腔内の確認を行っている。また入居者の状態に合わせてガーゼ等の物品を使用し清潔保持を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの尿意、便意の排泄パターンを把握して、声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるようにし、失禁による不快感等も軽減できるよう支援している。	トイレで排泄できるよう排泄パターンを把握して、声かけしたり、仕草や表情等を察知し、身体機能に応じて誘導を行っている。夜間も居室のトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツから綿パンツに変更した事例も多く、車椅子から手引き歩行でトイレ誘導し、下肢筋力の維持に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録しトイレに誘導している。また毎日の体操や水分補給を徹底し下剤に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回入居者の体調、希望を確認しながら行っている。入浴日以外は、足浴を行い清潔保持に努めている。それ以外に希望があれば、入浴を行っている。	入浴は週3回でシャワー浴で支援している。タオルや着替え等は前日に本人や職員と一緒に準備している。嫌がる時は無理強いせず時間を変えて対応している。入居者は毎朝清拭を行い、入浴日以外は足浴や下半身浴を行っている。脱衣場の環境も整備され、安全面にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、一日の生活リズムを作り、個別での希望や体調の変化、本人の生活習慣を考慮しながら、居室環境を整備し安心してゆっくり休息や睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに処方内容を綴り、職員が把握、理解できるようにしている。服用時にはきちんと飲み込めたか確認し、服用後の体調の変化は記録しかかりつけ医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、入居者の楽しみごとを知り、季節に合わせた作品作りや、手工芸、民謡を披露したり、これまでの培ってきた日常生活の経験や知識を発揮できるように努めている。		



沖縄県(グループホームコスモス 1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう普段、行けないような場所への外出は、事前に外出先の下見や準備などを行い、安心して外出できるようにしている。天気の良い日には、短時間でも屋上や近隣散歩で気分転換できるように努めている。	事業所裏道りの散歩や近隣公園に出かけたり、4階屋上でも外気浴、日光浴している。季節行事に合わせた外出や、魚市場や大型スーパー等でのショッピングにも出かけている。入居者個別に生け花教室への外出支援もしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と相談し本人の力に応じて支援するようにしている。家族から預かった場合でも外出時には利用者に支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい時は自由に電話を使用して頂いている。遠方に住んでいる家族への手紙を本人が書くことが出来ない時は代筆し近況をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うフロアは、利用者の作品や季節に合った壁画を利用者と一緒に飾付けしている。ラジオ、テレビの音量を調整したり音楽は馴染みのある音楽を流し、リラックスできる環境づくりに努めている。	共用空間のフロア等を中央に配置し、台所や浴室、トイレ等への入居者、職員の導線に配慮した造りとなっている。入居者の活けた花を飾り、時間設定して換気も行っている。入居者はフロアで編み物や読書等で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、家族や友人が面会に来られた時や仲間同士や一人でも、くつろげるスペースを作るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた物(枕・毛布)等を持ってきていただき、安心して休んでもらえるようにしている。壁には家族写真や置き物など馴染みのある物や、本人が作った作品等を飾るなどし居心地良く過ごせるようにしている。	居室内にはクローゼットやカウンターテーブル、洗面台、トイレ等を設え、入居者が思い々に活用している。入居者の持ち込みも多く、寝具やテレビ、三味線や将棋セット等趣味に繋がる物もある。カウンターテーブルは写真や小物を置く等で利用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態に合わせて部屋の入り口などに目印をつけたり安全に移動できるようベットの向きや椅子の配置など動線を妨げないよう工夫している。入居者の状態に変化がある時には話し合い自立支援に繋げている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770100834		
法人名	社会福祉法人ゆうなの会		
事業所名	グループホーム コスモス 2		
所在地	那覇市識名2丁目13番57号		
自己評価作成日	平成 25 年 12 月 12 日	評価結果市町村受理日	平成26年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4770100834-00&PrefCd=47&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム コスモスは識名の住宅街に位置し館内はグループホーム他5事業所が併設され地域からの相談を多機能にサポートできるよう地域に根差した施設を目指しています。住居スペースは全室個室で気兼ねなくご自分のペースで過ごせる住居を提供し、住み慣れた地域で親しみある方と、今までの生活と変わりなく過ごせるよう利用者、家族の想いを尊重していくよう努めています。また施設近隣の職員が就労していることで、日々、生活している利用者の住み慣れた地域での暮らしの背景や地域の活動について共に関わりを継続できるよう、利用者の培ってきた経験を活かしながら心身機能を維持し、安心、安らぎ、ゆとりのあるサービスを提供しゆったりとした共同生活を送れるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成 26年2月26日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議前に全員で理念を唱和し共有に努めている。また理念を事業所内に掲示することで、実践につなげられるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者が暮らしてきた地域の方と触れ合う機会を作っている。また近隣の園児との交流も定期的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域と共に支え合う関係を構築できることを目標にしている。問い合わせや相談も気軽にできるようプライバシーには十分配慮し対応させて頂いている。また人材育成の貢献として実習生の受け入れやスタッフの研修も積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所の取り組みや成果のみではなく、現状の課題やご家族の要望等も話し合い、その経過についても報告し意見交換を行い、サービスの向上に活かせるよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議や連絡会、市町村窓口において、事業所の状況等を伝えるなど日頃から連携を図れるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について共有認識を図るため勉強会を行い、身体拘束の具体的な行為について確認している。また安全面を理由に利用者の行動を抑制しないよう日頃からスタッフは気づいたことは互いに伝え合える環境を作り、家族にも伝えるようにしている。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を開催をしている。管理者は職員と個別で話し合う機会を設け、不適切な言葉や対応がないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や後見人制度について必要と思われる利用者がある場合、対応ができるようパンフレット等を準備している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族の都合のよい時間に重要事項説明書も用いて解りやすく内容を説明するようにし、項目ごとに気になる事や疑問があるか尋ねながらご理解、納得をしていただき契約を締結できるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いや意見は日々のケアの中で確認し、面会時に家族の意見や要望を聞くように努めている。入居者や家族・運営推進会議での意見要望等は申し送りやミーティングで話し合っている。玄関前に意見箱を設置し家族や外部からの意見を反映できるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、気付きや意見・提案等を聞くようにしている。業務やケアの見直しに関してミーティングで意見交換を行い内容を改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課では、職員一人ひとりの目標や業務状況を把握し、アドバイスを行いながら職員が向上心を持ち就業できるよう働きかけている。職員の実績は評価し給与に反映できる仕組みとなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対しては、マンツーマンの体制を取り、ケアの技術面、利用者の関わり方について指導を実地している。外部研修の情報を提供したり、職員のスキルに合った研修へ派遣し事業所内で報告会や勉強会を行っている。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修会へ参加し、同業者と交流を持ち情報交換や親睦を深めケア向上に活かしている。職務会は法人の他事業所との情報交換や交流の場となるように合同で行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人の状態把握に努め、入居前に見学や体験等をして頂き、本人・家族の不安や今後どのような生活を望まれているのか等を傾聴し安心して生活が送れるよう信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の体験や思いを理解し、いつでも相談頂けるよう家族の都合のよい時間や場所などに配慮し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にホームを見学して頂き、面談時に希望などをお聞きし必要に応じて他のサービスの情報等を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ち・希望・悩み等察知し、寄り添い毎日和やかに楽しく過ごせるよう努めている。日常の家事や行事の準備は入居者と一緒に行い、共に暮らす同志として関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人の近況報告をし、情報を共有している。また、誕生日等のイベントは家族と一緒にいき、共に支え合う関係を築き、入居後も家族と入居者の良い関係が継続できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人、友人と外出する際は、安心して外出できるよう準備をしている。面会の際はお茶等を用意し、ゆっくり過ごして頂けるように努めている。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を大切にしながら、日々の様子を観察しトラブル等見られた際には、職員が間に入り個別に話を聞き利用者同士がうまく関わり合いを持てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移られる場合は、関係者へ本人の状況や支援内容について情報を詳しく伝え、本人や家族が相談できるよう心掛けている。また、転居後も必要に応じて情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で声を掛け、表情・言葉などから、本人の意思をくみ取るよう努めている。家族の方から情報を得たり、職員間でも話し合い本人の意向を可能な限り実現できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分らしく暮らしていくことを支援するために、本人の会話の中からも生活歴やライフスタイルを把握するように努めている。本人から聞き取れない場合は、プライバシーに配慮しつつ家族・友人・知人から情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズム(食事・睡眠・排泄)などを把握し体調の変化を確認しながら、本人のできる力、わかる力を生活の中で発揮できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会話の中からも、本人の意向を確認し日頃の生活の様子を記録している。家族へ本人の生活の様子・意向をお伝えし、本人の意向、家族の意見・要望等が反映できる介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は入居者の状態を申し送りや記録を確認して業務に入っている。個別に生活の様子や身体的状態を記録することで、情報を共有できるようにし介護計画の見直しに活かしている。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望・要望に応じて訪問マッサージや訪問看護、通院時の送迎などの支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の高齢者支援ができるよう民生員と情報交換を行っている。入居後も家族や本人が在宅からの継続した関わりを持ちながら暮らせる体制を築けるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医を設け、迅速な対応(受診)が出来る体制を築いている。また本人、家族が希望するかかりつけ医は継続して利用して頂き、生活の様子や体調を伝えるなどし受診を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康管理を通して、体調の変化や些細な表情の変化などを、訪問看護へ報告し、適切な医療へ繋げるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ本人の情報提供を行い、面会時や電話連絡等で医療機関と連携し、退院後の受け入れが、スムーズに行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方について契約時に書面を用いて説明している。また、利用者の状態に変化がみられる場合は、その都度事業所で、出来る事・出来ない事を話し合い、関係機関と共に支援できるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連携がスムーズに行えるよう医療機関と話し合う機会を設け緊急時、夜間時マニュアルを作成している。今後は全ての職員が応急手当の勉強会を実施し体得、習得するように取り組んでいく。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回、日中、夜間を想定しての避難訓練、消火訓練、避難経路の確認などを地域住民と共に実践し協力体制を築けるよう取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格やプライバシーを尊重し本人の気持ちを大切にしながら、自己決定しやすい言葉かけや、自尊心を大切にすることを心掛け実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者自身が自己決定できる場面を作り、利用者一人ひとりの表情や、希望、好みを把握し満足して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に配慮しながらその日の気持ちを尊重し、食器洗い、洗濯たたみなどの作業や、休憩も本人のペース、希望で行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装・身だしなみは、ご本人の好みを確認しながら決め、自己決定がしにくい入居者は職員と一緒に考え、支援している。ヘアスタイルは本人の意向を確認しカットや毛染めなど家族の了解を得て行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、配膳、片づけ等は、入居者個々に合った活動を共に行っています。職員は入居者と同じテーブルで会話をしながら楽しい食事が出るよう心掛けています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調と一日の摂取量を把握し、個々の状態に合わせた食事量、形態を提供している。水分補給は手作りゼリーや黒糖湯、ヨーグルト等も準備し無理なく水分摂取できるように工夫している。		



沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアのうがいには衛生水を使用している。声かけをしながら義歯を洗ってもらったり、自分で出来ることは見守り、口腔内の確認を行っている。また入居者の状態に合わせてガーゼ等の物品を使用し清潔保持を心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの尿意、便意の排泄パターンを把握して、声かけや誘導行い、トイレで排泄できるようにし、失禁による不快感等も軽減できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録しトイレに誘導している。また毎日の体操や水分補給を徹底し下剤に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回入居者の体調、希望を確認しながら行っている。入浴日以外は、足浴を行い清潔保持に努めている。それ以外に希望があれば、入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、一日の生活リズムを作り、個別での希望や体調の変化、本人の生活習慣を考慮しながら、居室環境を整備し安心してゆっくり休息や睡眠がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに処方内容を綴り、職員が把握、理解できるようにしている。服用時にはきちんと飲み込めたか確認し、服用後の体調の変化は記録しかかりつけ医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ること、入居者の楽しみごとを知り、季節に合わせた作品作りや、手工芸、民謡を披露したり、これまでの培ってきた日常生活の経験や知識を発揮できるように努めている。		

沖縄県(グループホームコスモス 2)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に添えるよう普段、行けないような場所への外出は、事前に外出先の下見や準備などを行い、安心して外出できるようにしている。天気の良い日には、短時間でも屋上や近隣散歩で気分転換できるように努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、家族と相談し本人の力に応じて支援するようにしている。家族から預かった場合でも外出時には利用者に支払いをして頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ連絡したい時は自由に電話を使用して頂いている。遠方に住んでいる家族への手紙を本人が書くことが出来ない時は代筆し近況をお知らせしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が集うフロアは、利用者の作品や季節に合った壁画を利用者と一緒に飾付けしている。ラジオ、テレビの音量を調整したり音楽は馴染みのある音楽を流し、リラックスできる環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、家族や友人が面会に来られた時や仲間同士や一人でも、くつろげるスペースを作るよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が家で使用していた物(枕・毛布)等を持ってきていただき、安心して休んでもらえるようにしている。壁には家族写真や置き物など馴染みのある物や、本人が作った作品等を飾るなどし居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身の状態に合わせて部屋の入り口などに目印をつけたり安全に移動できるようベットの向きや椅子の配置など動線を妨げないよう工夫している。入居者の状態に変化がある時には話し合い自立支援に繋げている。		